

第5回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和8年2月1日（日曜日）15時30分から16時40分（※高校生議会終了後に開催）

開催場所：三田市役所本庁舎6階 委員会室

参加者：高校生議員（19名：兵庫県立有馬高等学校、クラーク記念国際高等学校三田キャンパス、兵庫県立三田祥雲館高等学校、三田松聖高等学校、兵庫県立三田西陵高等学校、三田モードビジネス専門学校、兵庫県立北摂三田高等学校）

【高校生からの意見】

高校生：三田市のことを調べている中で、三田市は20～23歳の転出が多いことが分かった。ちょうど大学などの学校を卒業する頃に転出している。市内にも大学があるので住んでいる学生もいれば、他市から通学している学生もいると思う。三田市は働く場所が少なくないと思うが、三田市の大学に進学した人をそのまま三田市に引き留められるような対策ができないか。

市長：若者層が一定数、転出してしまうことは仕方がないのではないかと考えている。多くの企業が都市部に集中していることや、今の若い人たちは、売り手市場なので、企業側も社宅や福利厚生などを手厚くしている。都会への憧れもあると思うので、出ていくことを抑え込むのは難しいとも思っている。ただ、実は三田市には素晴らしい企業がたくさんあることを皆さんに知っておいてほしいし、そのことを伝えきれていないことが課題だと思っている。三田に素晴らしい企業が多くあり、働く場所もここにあることをもっと発信していきたいと考えている。

高校生：私の父は、大阪に働きに出ているが、市としては、市内で働いてもらい・住んでもらうことを目指すのか、市外で働いてもベッドタウン的に三田市に住んでもらうことを目指すのか。

市長：あくまで、ベッドタウン的な位置づけだと考えている。三田市は、農村地域と市街地が融合しており、これだけうまく調和がとれている市は全国的にも珍しいと考えている。この素晴らしい「田園都市」を、環境を棄損することなく維持することが市の財産になると考えている。

働き口のことですと、都市部に多くの企業が集中しているが、三田にも魅力ある企業がたくさんあり、三田で働くということもできる。今、多くの企業が「担い手（働き手）が確保できない」という問題に直面している。三田の公共交通のことを例にあげると、公共交通を維持するためには運転手が必要だが、現状は運転手が確保できず減便せざるを得ない状況になっている。神姫バスでも三田営業所で5～6人足りない状況になっている。このことを課題と認識しており、この課題を解決するために、市と神姫バスと連携協定を結んで、「担い手共創プロジェクト」を創設し、運転士がいなくて減便しないといけないという課題の解消を図るとともに市内での働き口の創設に取り組んでいる。

高校生：三田市の課題について調べる探究授業の中で、市内で農地の放棄や空き家が増えていることが分かった。農地の放棄は担い手不足の原因もあると思うが、例えば企業や教育機関を誘致して空いている土地を活用し、人を呼び込んでどうか。

市長：市内には農業に従事している人が約千人いるが、子どもが継いでくれない、担い手がいなくて農地が荒れていくことが課題となっている。担い手がいなくなってしまう農地の中でも広大な土地であれば法人が耕作することもできると思うが、狭小の土地になると放棄されるケースも多い。こうい

った対策について、来年度予算に計上する予定だ。担い手が減っているのは、企業の定年退職の年齢が上がっていることも原因の一つで、定年退職後に農業をする、ということが難しくなっている。空き家対策については補助金も出しており、市街化調整区域に移住した場合は補助金を上乘せしている。企業の誘致に関して言えば、第三テクノパークの構想はあるものの採算が合わず、今止めている状態になっている。こういった状況であるが、市の活性化のために工夫しながら様々な事業を推進している。

高校生：三田は、近畿の中で一番寒い、と言われているくらい冬は寒い。小中学校と高校も教室がヒーターしかなく、とても寒い。環境を良くすることで三田市の人口が増えると思うが、どう思うか。

市長：市立の小中学校は市が管轄になるが、県立高校は県が管轄になる。学びの機会を均一にすることは大切だと考えている。小中学校の空調整備については、必要なことだと認識しており、順次進めていく。

高校生：市長として、人口対策以外で一番やりたいことは何か。

市長：市内には、様々な観光スポットとなる資源があるものの、具体的にどこに行けばいいのか分からないという現状に課題を感じている。三田牛をはじめ、市が持っている様々な観光資源をもっと分かりやすく発信していくことが必要だと思っている。三田を観光地として選んでもらい、滞在してもらえようなまちにしたい。地方財政は厳しい側面があるが、企業と組んで「公民連携先進都市」を目指して事業展開したい。

高校生：市内には、気軽に立ち寄りにくい公園や、遊びにくくて、子どもが楽しめない公園があるように思う。子どもの頃に楽しく遊んだ思い出が多い方が、三田のことを好きになってもらえると思う。

市長：ニュータウン開発が行われた際に、様々な公園が作られた。公園はあるが、遊んでいる子どもが公園にいない。Park-PFI（※）という仕組みがあり、これを活用して楽しめる公園にしていきたい。「こんにちは！市長です（市長タウンミーティング）」などで子育てしている保護者から、子どもが安心して遊べる所がない、という意見を今までにもたくさん聴いており課題だと思っている。また、「美しい三田」のために植栽管理を推進している。最近、植栽管理で「〇〇造園が管理しています」という看板を設置しているが、綺麗に剪定すると、造園業者にとって看板設置が良い宣伝になる。また、車道の中央分離帯の植栽管理として竹チップを撒くことによって、雑草が生えるのを抑制する試みも行っている。

※Park-PFI：都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性の向上を図る新たな整備・管理手法。

高校生：西宮や神戸は、まちの光が強く、星が綺麗に見えにくいですが、三田市はこういった“光害”が少なく、星が綺麗に見える場所だと思う。こういった“天文”を三田市の魅力の一つとしてイベントなどでPRしてはどうか。

市長：素晴らしい意見をいただき、感謝している。三田市は本当に夜空の星が綺麗に見えて、心が洗われる。“天文”をイベントに絡めるなど検討したい。

高校生：フラワータウン地区に住んでいるが、建物が老朽化し、高齢化が進んでいる。ニュータウンの整備についてどのように考えているか。

市長：フラワータウンは開発から約 40 年経過している。こういったニュータウンの整備は、財政負担を鑑みながら、「縮充」（＝縮小して充実させる）の考え方をベースに公共施設マネジメントを行うことをあわせて考えていきたい。

高校生：三田は自然が豊かなことが魅力の一つだと思う。ただ、サルやイノシシなどの“獣害”で農作物への被害もあると思う。市が被害への支援を行うことで、農業者への負担軽減になると考えているが、どう思うか。

市長：市としては、防護柵の設置などの支援をしている。サルなどが住宅街にも出没している。三田市全体の農村地域で言うと昔からイノシシ・シカの被害がある。シカの被害が多いが、狩猟者の担い手が不足している。シカを駆除してもその後の処理も大変で、狩猟者が増えてこない。農業者からの声を聞きながら、取り組み強化を図っていく。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。